

目指す学校像	保護者・地域と絆を深め、親しまれ、信頼される学校
重点目標	1 確かな学力・体力の向上、自立した行動ができる児童の育成。 2 安全で清潔な環境の整備による安全・安心な学校づくり。 3 教育環境の整備と開かれた学校づくりの推進及び家庭並びに地域との連携強化。 4 教職員の指導力向上と働き方改革の意識の醸成。

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和7年2月7日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・算数ともに全国、市平均と比べて良好な結果である。 ○学校評価（児童アンケート）において「学習が楽しい」の肯定的な回答をした児童の割合は86%であった。 〈課題〉 ○学校評価（児童アンケート）の結果「授業では、よく話し合い活動をして、友達と意見交換をしています。」の肯定的な回答が91%に対して「授業では、自分の考えを発信、発表をしています。」が68%で、差が見られた。全体の前でも自信をもって考えを伝えられる力の育成が課題である。 ○新体力テストの結果では、50m走、ボール投げ、20mシャトルラン、反復横跳び、上体起こし、握力において、市の平均を下回っている。 ○学校評価「外で元気に遊んだり、進んで運動したりしています。」の項目の肯定的な回答が、78%である。	・自ら学び、考え、判断し、よりよく問題を解決できる子の育成	① 算数科の授業を中心に一人一台端末を活用した個別最適な学びの場面、友達と対話し、自分の考えを発表する場面等を意図的に取り入れた授業実践を行っていく。 ② 算数科の授業を中心に前時までの学習の振り返りを行い、児童自ら既習事項を想起し、これを生かして新たな課題に主体的に取り組めるようにする。	① 学校評価、児童アンケートの結果「授業では、自分の考えを発信、発表をしています。」の肯定的な回答70%以上を達成できたか。 ② 学校評価、教職員アンケートの「ICTを授業に活用」に関する項目の肯定的な評価が95%以上（前年度93%）保護者アンケート90%以上（前年度89%）を達成できたか。	① 評価指標「授業では、自分の考えを発信、発表している」の結果は、肯定的な回答が、昨年68%から今年67%とあまり変化がなかったが、授業の中でICTを活用して、自分の考えを他者に伝える機会は定着してきている。 ② 評価指標「ICTを授業に活用」の結果は、教職員の肯定的回答が92%、保護者は、昨年度89%から3%上昇が見られ92%だった。参観や日常の児童の様子から活用の様子が伝わったことが考えられる。	B	① 算数科に限らず、どの教科においても自分の考えをしっかりともち、他者に伝えていく機会を意図的に取り入れた授業実践を行っていく。 ② 引き続き、授業の中で一人一台端末を活用した自由進度学習等の個別最適な学びの機会を設定し、実践していく。また、授業公開等で保護者にも活用している場面を見てもらう機会を増やしていく。	・ICTが授業に入って、すごく授業が変わってきていると感じる。 ・地域には、様々な特技をもっている方も多いので、外部講師としてうまく活用するとよい。 ・人材の確保等の問題もあると思うが、体力向上に課題があるというのならば、朝の時間に体育館等を開放し、モーニングサポーターの方に見守ってもらうなど柔軟な対応を考えてみてはどうか ・別所沼公園では、毎朝ラジオ体操を行っているので、子どもたちにもアナウンスしてもよいのではないか。
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の質問紙調査の結果分析から、「学校に行くのが楽しい」に、肯定的に回答した子どもの割合が、市平均よりも高い。 ○学校の安心に係る学校評価アンケート項目（子どもは楽しく学校生活を送っている、学校はいじめのない学校づくりに真摯に取り組んでいる、学校は施設・設備の管理が適切に行われている）、保護者の肯定的な評価は、それぞれ95%、93%、84%となっている。 〈課題〉 ○心と生活のアンケート結果を基に、昨年度の学期ごとにおいて、担任と教育相談を実施した子どもの割合は17.6%で、悩みや不安を抱えている子どもが一定数いる。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐむことが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成、環境整備	① 毎月1回の教育支援・相談に係る校内委員会を実施し、その中で出た必要事項については、学年会等で資料の共有を図り、全教職員で共通理解・共通行動をとれるようにする。 ② 希望する保護者、児童が担任と面談できる「さわやかデー」を毎月1回、第1金曜日に設定する。	① 学校評価、教職員アンケートにおいて、「児童理解、きめ細やかな指導」に関する「そう思う」の回答42%（前年度39%）を達成できたか。 ② 学校評価、保護者アンケートにおいて、「児童理解、きめ細やかな指導」の肯定的な回答93%（前年度90%）以上を達成できたか。	① 評価指標「児童理解」（教職員）の結果は、肯定的な回答は、昨年度同様100%と高い評価が得られたが、「そう思う」の回答は、昨年39%から今年38%と向上させることができなかった。 ② 評価指標「児童理解」（保護者）の結果は、肯定的な回答は、昨年93%から今年94%とあまり変化が見られなかったが、一定の評価が得られた。	B	① 月1回の教育支援・相談に係る委員会を実施し、必要事項については、全教職員で共通理解を図る。また、定期的に教育相談に関する校内研修を行い、しっかりと対応できるスキルを全教職員が身に付けられるようにする。 ② 心と生活のアンケート結果から教育相談の対象になった子どもたちを中心に、個々のもつ課題をよく理解しながら、その課題に寄り添ったかわりを行っていく。	・校内の安全の他、校外の安全も考慮した取組を推進する。 ・浦和別所小の先生方は、非常にきめ細かく、子どもたちを見てくれている。 ・学校のあいさつキャンペーンや下校キャンペーンには、民生委員や地域、育成会も協力できる部分がある。
3	〈現状〉 ○昨年度、学校運営協議会において、目指す児童の姿について共有するとともに、「学校・家庭・地域が連携して取り組む『安全な登下校』」について熟議を行い、保護者に向けて協力依頼の手紙を配付した。 〈課題〉 ○今年度は、学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域等に広め「学校・家庭・地域が連携してさらに、取り組めることを検討し、実行していく必要がある。	・目指す児童像について学校・家庭・地域での共有と連携 ・学校行事の公開、地域主催の行事の実現	① 年に3回の学校運営協議会を開催し、熟議で決定したことを保護者や地域に発信し、実際に取り組むHPに教育活動の様子を掲載し、原則1日に1回更新し、発信する。 ②	① 学校運営協議会で決定したことを保護者や地域に発信し、実際に取り組むことができたか。 ② HPに教育活動の様子を原則1日に1回更新し、発信できたか。	① 学校運営協議会で「児童の安全な登下校」について熟議し、通学路を一部変更した。また、熟議の内容については、学校だよりで保護者や地域に発信することができた。 ② 日々の教育活動の様子について、HPにて毎日発信することができた。	A	① 今後も学校運営協議会委員と情報交換や発信に努めていく。 ② 引き続き、HPや学校だよりを活用して児童の様子を配信していく。	・すくさばでは、今後も学校のお手伝いを積極的に行っていきたいので、要望があれば、どんどん相談してほしい。 ・育成会は、来年度はソフトバレーボール大会だけでなく保護者等の大人向けの講演会を計画している。 ・社会福祉協議会では、4年生の総合的な学習のサポートをできるので、ぜひ活用を検討してほしい。
4	〈現状〉 ○第5・6学年において教科担任制を導入し、担当する教科に限って教材研究することで、専門的に児童が学習を取り組めるようになっている。 ○今年度は、学校課題研修において、学びのポイント（じ・し・ゃ・く）の視点に基づく授業改善について研修を進めていく。 〈課題〉 ○各教科においてICTを活用しているが、児童にとってより学習効果の高まる活用について検討していく必要がある。 ○学校課題研究における授業実践を重ね、一人ひとりの授業スキル向上を図っていく必要がある	・目指す学校像の実現に向けて、教職員一人ひとりが力を発揮できる体制づくり	① 全ての教職員がオンライン授業やスタディサプリ等を活用した個別最適な学びに対応できるよう、教務主任を中心に環境整備を進め、実用化させる。 ② どの教員も同じようにICTを使えるよう、エバンジェリストやICT支援員を講師に、研修を定期的（学期に1回以上）に行う。 ③ 教職員一人ひとりが、授業実践を行い、まとめ、教職員同士で共有する機会を設ける。	① 学校評価、児童の「学習が楽しいです」に関する肯定的な評価が95%以上（前年度93%）を達成できたか。 ② 学校評価、教職員の「ICTを授業に活用」に関する項目の肯定的な評価が95%以上（前年度93%）達成できたか。 ③ 教職員一人ひとりが、授業実践を行い、まとめ、教職員同士で共有する機会を設けられたか。	① 評価指標「学習が楽しいです」の結果は、肯定的な回答が昨年度86%から今年度86%とあまり変化がなかった。 ② 評価指標「ICTを授業に活用」の結果は、教職員の肯定的回答が92%であった ③ 教職員一人ひとりが主体的に取り組めるような研修体制（一人一実践、まとめ）を整えた。ICTの教職員研修を、1学期に3回、夏季休業中に1回実施した。	B	① 学校課題研究について、体育科を中心にから教科の枠を広げて、教職員一人ひとり実践を行っていく。 ② エバンジェリストを中心に学習指導や業務改善を推進するための研修を実施していく。 ③ 中（低）学年でも一部教科担任制及び交換授業を導入していく。 ④ 教育課程や日課表の見直しや集金業務の改善等を行い、教職員の資質向上を図る研修の時間や授業の準備に充てられるようにしていく。	・教職員の負担軽減、児童への影響も含めて、中学年での一部教科担任制及び交換授業は良い。指導の透明性にもつながる。 ・児童への指導は、小中で連携していける部分もある。 ・中学校では、自動採点システムを導入しているが、小学校でも検討してみてもどうか。

